

# 道路・公園緑化ガイドライン



平成24年(2012年)2月改訂  
広島市都市整備局緑化推進部

平成19年3月制定



## 《 目 次 》

はじめに	1
------	---

### 道路緑化編 2

～ 5つのポイント ～	2
1 街路樹の望ましい姿	3
1-1 統一美の表現	3
1-2 空間に応じたボリュームの維持とバランスの確保	4
2 並木としての統一美を生み出すには	5
2-1 目標樹形の設定	5
2-2 路線毎の目標樹形の設定	6
2-3 タイプ別の剪定の方針	7
3 その木らしい樹姿を創り出すには	8
3-1 樹木の特性	8
3-2 生育のサイクルと剪定時期	9
3-3 主な樹種の剪定例	11
4 安全を確保する	12
4-1 腐朽とその型	12
4-2 外観点検	13
5 剪定の基本を守る	16
5-1 使用される用語	16
5-2 用語の説明	17
5-3 剪定手法の説明	21
5-4 その他	24
6 良好な維持管理に向けて	25
6-1 実施に向けた協議・検討	25
6-2 剪定作業を行うに当たっての協議事項例	26
6-3 実施に当たっての留意点	28

### 公園緑化編 29

～ 5つのポイント ～	29
1 公園種別毎の樹木管理	30
2 犯罪が起こりにくい環境創り	32
3 安全を確保する	36
4 剪定の基本を守る	36
5 良好な維持管理に向けて	36



## はじめに

道路や公園の樹木は、都市に生活する人たちに「やすらぎ」や「うるおい」、「親しみ」などを与えている。こうした樹木には様々な機能があるが、こうした精神面に与える効果は非常に大きい。これは、一般に、道路や公園を構成する素材の中で、樹木が唯一生き物であることに起因すると考えられている。

また、ほとんどが人工物によって占められた都市の中で、樹木は、四季折々に変化し、年月とともに成長し、“生命力”を感じさせてくれる。

街路樹を植栽する場所は、主に道路の中の歩道空間であり、建築限界や架空線、信号機等、様々な制約があり、それらと調整を図りながら、空間に収まりよく維持していく必要がある。しかし、その現状を見てみると、良好な状態で維持されているものは少ない。

一方、公園樹（高木）については、特別な場合を除き、これまで剪定を行わない「自然成長方式」により、各樹木の持つ本来の姿を尊重する管理を行ってきたが、整備後年数が経過した公園では、樹木が大きく成長し、伸長した枝葉が緑のボリューム感を醸し出している反面、枝葉の繁茂に対して落ち葉や日当たりの問題など市民からの要望・苦情も増加している。

また、公園で発生する犯罪を防止するため、犯罪を行おうとする者が近づきにくいように、周囲からの見通しを確保するなどの配慮が必要である。

このような状況の中で美しい街路樹や公園樹を創り出すとともに、安全なまちづくりを進めていくためには、街路樹・公園樹の維持管理の重要性、認識を深めるとともに、剪定技術の向上を図ることが重要である。

こうしたことから、樹木の維持管理の重要性、剪定の基本的な考え方や留意事項をガイドラインとして取りまとめた。道路や公園の緑化を進めるに当たり、業務の参考として活用していただきたい。